



第35回広島平和体験学習

昭和60年3月に平和の村宣言を採択して以降、『占冠村教育を語る住民会議』が中心となり、広島・長崎の惨劇を絶対に繰り返さず核も戦争もない平和な社会への願いのもと、市内の中学生を広島に派遣する『広島平和体験学習事業』を毎年行ってきた。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止しましたが、今年7月27日から30日の期間で実施され、昨年参加できなかった生徒も含めて生徒9人・引率2人が参加しました。また、8月6日には、占冠村・占冠村教育委員会などが後援となり、中学生による報告会と平和を考える映画会が行われました。

この平和体験学習を通じて、生徒が学んできたことを育み伸ばして行けるのは私たち大人です。みなさんと一緒に平和について振り返ってみましょう。

2年 高橋聡美
体験に行くにあたって実際に自分の目で原爆ドームを見て、どのくらい戦争が恐ろしいことなのか考えたいです。

見学内容・体験内容
袋町小学校は爆心地から460mの位置にあり、原爆によって大きな被害を受けました。朝会のために外に出ている教職員・児童、約160人が亡くなりました。奇跡的に助かったのは、教職員1人・児童3人でした。屋外で裸足で遊んでいて靴を履くように言われた1人とたまたま遅刻をした2人が地下の下駄箱に集まったときに原爆が投下されました。

全体を通して戦争に対しての意識が大きく変わりました。戦争は恐ろしいもの、これが自分の思っていることでした。しかし、被爆体験講話や実際に原爆の被害を受けた建造物を見て、戦争は怖いだけでなく、その後の人生まで変わってしまうと改めて思いました。この先、この学習で学んだことを生かし、様々な人へ「平和の大切さ」を伝えていきたいです。

2年 伊達結月
体験に行くにあたってプライベートで広島に行くことは無いと思うので、今回広島に行って貴重な体験をたくさんし、テレビだけでは感じきれない原爆の恐ろしさを学びたいです。

見学内容・体験内容
袋町小学校は西校舎がコンクリートで作られていたの、外郭のみ原型をとどめることが出来ました。そのため被災者の救護所として利用され、被爆者の消息などが伝言として集まりました。原爆による爆風はどれほど強く恐ろしいものだったかがわかりました。西校舎の2階には、たくさんの折り鶴が供えられています。

全体を通して原爆の恐ろしさを実際に見て体験できてよかったです。また、当時活躍した人たちや今の国民の原爆に対する強い意志をたくさん折り鶴などから感じることができました。原爆の恐ろしさを詳しく知らない人はたくさんいると思います。これから私たちが伝えられる限りのたくさんの人に伝えていきたいです。

2年 八木翔琉
体験に行くにあたって自分たちが経験したことのないことを実際に目で見てみたい。

見学内容・体験内容
原爆ドームを最初に見たときに、当時の人々の強いメッセージが伝わって来ました。戦争を体験したことがない僕たちに原爆の悲惨さ・残酷さを最も伝えてくれたところでした。この学びを次に生かしたいです。

全体を通してこのコロナ禍で広島に行けたことはとても貴重な学びの時間になりました。実際に被爆者の声を聞いて、とても悲しい気持ちになりました。それと同時に繰り返してはいけないという気持ちも生まれました。この気持ち、声を次世代に伝えたいです。

真や展示物を見て回りまわした。結構痛々しい写真もあり、原爆の恐ろしさを痛感しました。展示物の中で一番印象に残ったものは被爆した砂です。これは放射線を測るために採取されたもので、砂が入った小瓶がたくさんあったので印象に残っています。

全体を通して占冠では学べないことをたくさん学習できたので、とても良い経験になったと思います。被爆した建物の一部をお店の外装として利用したり、現在も広島の人たちとともに暮らしていることがわかりました。この体験をもとに平和を日々願っていききたいと思います。

原爆の悲惨さを物語っていただきました。爆心地から近いところにあるのに当時の形を保っているのがすごいと思いました。

全体を通して広島で原爆の恐ろしさとかを学べてよかったです。被爆者の話は、すごく怖かったけど聞くことができてよかったです。原爆投下の記憶は、忘れたらいけないので、今回の学習で学んだことを、次の世代に伝えていきたいです。

2年 ルックス 授那
体験に行くにあたって昔の人たちが犠牲になって教えてくれたことを、今を生きる私たちがしっかりと学び、同じ過ちを繰り返さないために、未来に伝えていかなくてはならないと思います。また、戦争は過去のことではなく、世界各国で現在も続いているので、戦争のことや平和のことをしっかり学んで、世界を平和にする方法を見つけたたいです。

見学内容・体験内容
私はこれまで、戦争についてのテレビを観たり、本を





3年 井川結

●体験に行くにあたって
戦争について学ぶことで、これからの自分の人生に何らかの形で生かせたり、命の尊さについて改めて考えられると思います。平和についての考えを深め、これからの日本はこうなつて欲しい」という思いを強めたいです。

●見学内容・体験内容

2日目の被爆体験講話では、実際に原爆被害にあった白石さんから、原爆の被害の大きさや外へ出ることへの恐怖、被爆した方への差別などの話を聞きました。講話が終わってからガラスの傷跡を見せてもらいました。本当に被害が大きかったんだと痛感しました。どのお話もとても勉強になることばかりで、あつという間の1時間でした。全体を通して

自分の目でいろいろな建物を見て、他人の命を奪ってしまう戦争は二度とやっほしくないと改めて感じました。そして広島に行った学びたかったことがたくさんあつて、広島に行くことが出来てよかったと思いました。

3年 石塚聖

●体験に行くにあたって
直接行って、戦争のことを学びたいと思いました。広島に行つていろいろなことを知つて、それをみんなに伝えたいと思います。

●見学内容・体験内容

戦争のせいではなくさんの人の命が失われてしまい、本当にかわいそうだと感じました。被爆者の話を聞いて悲しくなり、原子爆弾の怖さを改めて知りました。しかも戦争中の生活はご飯は少なく、不自由の中で頑張つて生きてきた人はかわいそうだと感じました。なので、今は食料がたくさんあるけど、好き嫌いをせず生きていきたいです。全体を通して

原子爆弾が落とされたのは日本だけなので、もし大人になったら世界中の人に知らせたいです。こんな貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

3年 堀江風仁

●体験に行くにあたって
どうしてこのようなことが起きてしまったのか、そしてどうしたら良かったのか

知りたいからです。

●見学内容・体験内容

被爆にあつた白石多美子さんのお話を聞いたことが印象に残りました。理由は「私は被爆者です」と言うこと周りに「病気がうつるから近づかないで」と言われて、みんなから避けられて一人になつてしまった」と聞いたからです。実際は病気なんてうつらないのに、決めつけられてとてもひどいと思いました。全体を通して

今回の平和体験学習を通して、戦争は絶対やってはいけないものだと思ひました。なぜなら、戦争が起ることによって、たくさんの人たちが亡くなつていくからです。そして原子爆弾は人を殺すだけでなく、人間関係をも狂わせるものだと学びました。これからも戦争の無い平和な日が続いてほしいです。

※掲載した内容は、8月6日に行われた平和体験学習報告会並びに「第35回広島平和体験学習実施報告書」の内容を抜粋して掲載しています。



被爆建物を利用した商店

●引率者(教諭) 竹澤恵里加
今回の平和体験学習では8月6日の式典への参加はできませんでしたが、広島市内の被爆建物を実際に見たり、被爆体験者から直接話を聴くことで、平和活動の大切さを実感できました。

広島市内の被爆建物を巡る体験では、教科書やテレビなどの情報では知ることのできなかったその当時の様子を詳しく知ることができました。特に印象が強く残つた建物は、袋町小学校平和資料館と旧日本銀行広島支店です。袋町小学校は爆心地から460mの位置にあり原爆によつて大きな被害を受けました。百余名の児童、そして教職員ほとんどは外で建物の残骸処理作業をしていたため、一瞬にして命を失いました。唯一、鉄筋コンクリート造だった西校舎だけが外郭のみ原型をとどめ、避難場所や救護所として児童・教職員や地域の人々の安否を尋ねる場となり、人々は床に散らばるわずかなチヨークで、焼けた壁に伝言を記する役割をしていた建物と知りました。

その堅牢性から建設当時の姿を現在も残しています。被爆から2日後には銀行の支払い業務が開始され、営業不能となつた市内金融機関の仮営業所が設置され、金融面から広島島の復興を支えた史実を伝える貴重な被爆建物であることを知りました。

他にも強く印象に残つたのは原爆ドームから平和記念公園レストハウスへ向かう橋の欄干です。この橋の欄干は原子爆弾投下当時のままで残つているのですが、一部分が溶けた状態で残っており、爆風だけでなく同時に石をも溶かす高熱の熱線が帯を襲つたことを教えてくれました。被爆体験者の講話では、小学校1年生であつた7歳の時

に爆心地から4km離れた学校の教室で、本を開いたときに被爆した白石多美子さんのお話を聞きました。爆心地から4kmも離れていて、75年経つた今でも飛んできたガラスの破片による傷を残してしまふ原子力爆弾の威力、そして戦争の真の恐ろしさは人の命を奪うだけでなく、たとえ生き残つたとしても人の心に深く大きな傷を残してしまうということを知りました。

私は真の語り手にはなれませんが「教え子」を再び戦場に送らないためにも、多くの生徒が平和について考え、主体的に学ぶ機会を保障してあげられるようこれからも尽力したいと思ひます。

